

進路広報

平成31年3月6日発行
千葉県立船橋二和高等学校
進路指導部

自己物語

校長 三木 信夫

ある時期に、「自分探し」という言葉が世の中で話題になりました。本当の自分を探すために旅に出たり、新たなことに挑戦したりする人たちがいたのですが、なかなか「自分」は見つけられなかったようです。（榎本博明『〈自分らしさ〉って何だろう?』ちくまプリマー新書、2015年）という本があります。この本の中で、筆者は「自分」について次のように書いています。「『どこかにほんとうの自分があるはず』というのは間違いだ。自分というのは、『今、ここ』にいる自分しかない。」「『自分とは何か』という問いは、『自分はどんな生き方をしているのか』という問いに形を変える」。自分がどんな人生を送ってきたかを振り返り、その上で先の人生を考える。その時に自己にまつわるエピソードから自分のことを語っていく。筆者はそれを「自己物語」と言い、「自分の行動や自分の身に降りかかった出来事に意味づけをし、諸経験の間に因果の連鎖をつくることで、現在の自己の成り立ちを説明する、自分を主人公とする物語のこと」と定義しています。

少し難しいでしょうか。自分がこれまで経験してきたこと、歩んできた道を振り返り、印象に残った出来事を思い出して、自分がどんな言動をしてきたかを確認し、その出来事を今の自分につなげていく。そこから将来の自分が進む道をイメージして、自分が主役のストーリー（自己物語）を作っていくことになります。

就職予定の皆さん、「決意表明式」は、素晴らしく、皆さんの表情、姿勢、発表の声が強印象に残りました。社会でさまざまな出会いや経験を重ね、それぞれの職場で、それぞれの「自己物語」を綴^{つづ}ってくれることを祈念します。

上級学校に進学予定の皆さん、在校生の皆さん。しっかり学ぶ。皆さんも将来は、職業を選択し、社会人の一人として、さまざまな分野で活躍することでしょう。自分の行動に意味づけをして「自己物語」を構築してくれることを願っています。

繰り返しの時間を大切に

進路指導主事 中馬 丞

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業後の新たな進路に向け、期待に胸を膨らませていることと思います。

希望する進路を実現させるため、高校3年間を有意義に過ごしたことでしょう。基礎力はしっかりと定着し、応用力も十分に身についたと思います。日々、繰り返しの学習に励んだはずです。

基礎力とは、学校で学ぶ各教科の基礎知識、文章を書く力、時事の出来事に対する興味や関心、人と話すときの言動や態度など、いろいろとあります。これらは短期間では決して養われるものではありません。日々の努力の積み重ねによって身につけていきます。高校生活で養った基礎力は、日々の努力の集大成なのです。

卒業する3年生の皆さんは、強い意志をもって努力したに違いありません。

1、2年生の皆さん、3年生の先輩が実践した「高校生活の中で繰り返しの時間」をできる限り多くつくり、一日一日を大切に過ごし、努力してほしいと思います。そうすれば、必ず希望の進路が実現されるはずです。

皆さんの「希望に満ちた将来」を期待しています。

1. 3年生の進路指導

(1)進学(大学・短大)

大学・短大進学者の入試形態(2019.2.28現在)

単位：人

		指定校推薦	公募推薦	AO	一般	計
大学	男子	31	2	17	12 (未定含)	62
	女子	14	2	19	7 (未定含)	42
	計	45	4	36	19 (未定含)	104
短大	男子	0	0	2	0	2
	女子	13	1	13	0	27
	計	13	1	15	0	29

本年度は、平成31年2月28付で、大学進学者85名、短大進学者29名、合計114名となっています（一般受験は除く）。本年度の特徴としては、海外の大学に興味を持った生徒がいることです。1名は海外の大学の日本校に進学し、2名は海外へ留学することになっています。いずれも、海外の文化に興味を持ち、語学をはじめとした学習を習得・研究するために進学する予定です。これは、本校が台湾修学旅行を実践していること、海外に進出する企業が増えていることが一因していると思います。グローバル化が推進されている今日、今後もこのような進学の傾向が増えていくのではないのでしょうか。センター試験の受験者は18名で、一般受験者も増えています。

また、この表から分かるように、指定校推薦で進学する生徒は大学、短大合計で58名います。昨年度とほとんど変わらない人数ですが、今年度特徴的だったのは、合格後に大学・短大から多くの課題が出されたことです。指定校推薦では、受験者の客観的な学力を知るために学力検査を実施するところが多くあります。合否判定には用いないとされていますが、入学までにマスターしておきたい学習内容について、沢山の課題が出ています。もちろん、進路指導部にも連絡があります。高校の学習で指定校推薦の基準を満たしていても、学力に不十分な場合が多いと認識しておいてください。大学・短大のレベルからかけ離れている場合は、入学後の授業の理解や進級に係わることにもなります。

『大学・短大を受験するにあたって』

*何のために進学するのか？

毎年、何人かの生徒は、自分の成績に合うからと言う理由だけで、進学先を決めてしまっています。偶然、将来の夢に合うところなら良いのですが、入学してから自分に合っていないと分かったときはとても苦勞します。中には、やめてしまう人もいます。大学・短大はそれぞれ特徴が違い、教育内容や目標も違います。大学・短大は研究をするために行くところであって、なんとなく行くところではないと認識してください。自分が何を研究したいのか、将来の希望は何か、いろんな人に相談しながら明確に

していくことが大切です。

***合格してゴールではない**

近年、専門学校がAO入試を早期に行うようになった影響で、大学・短大も早期にAO入試を実施するところが出てきています。様々な進路ガイダンスや面談で将来を考えているとは言え、1学期の内に進路先を決定して本当に大丈夫でしょうか？早く決めすぎて、途中でキャンセルしたり、進学してから目標が見つけれずにやめる人もいるそうです。一般的には夏からまずAO入試が始まり、公募推薦、指定校推薦と、早い人は2学期のはじめに進路先が決まります。決まってほっと安心でしょうか。実は間違いと言うことに多くの生徒は気づくことが出来ていないのです。入学までにやることは山ほどあります。他校の優秀な生徒が沢山入学してくるのが現実。高校の学習内容は全てマスターしていることは当たり前で、そこから大学はスタートするのです。高校の勉強で分かっていない部分がある人は、合格後はそれに専念しなければなりません。

***「自然体＝合格」を目指す**

受験の間際にあわてて準備しても、付け焼き刃の態度や言葉は見抜かれます。何より、自分自身がいやになってしまうことと思います。学校生活をしっかりと送ることとともに、日常生活面で気をつけることが大切です。まず、笑顔で挨拶が出来ること、返事は大きな声で明るく、お辞儀の仕方や角度も適切に出来ることが必要です。総合学習で勉強することとは思いますが、自分でも面接の参考書などを購入して、自主的に学習していきましょう。その学習は、今のみならず、将来就職をするときや、仕事を持ったときにもつながる大切なことなのです。

***あなたに求められていることは何ですか。**

指定校推薦の意味はきちんと理解しておくべきです。学校の代表として行くのであり、「合格しやすいから」というのは論外です。進学した学校を卒業するまで、「指定校推薦の人」としてずっと見られますし、期待されます。本年度ほとんどの人は、合格後も成績上位を保ち、自主的に参考書を購入するなどして力をつけています。たった1人でも意識の低い人がいると「二和高校はよくない」と言われてしまうのです。意識の低い生徒はどうなるかということ、もちろん、進路指導部の先生の丁寧な個別指導を受けていただき、前向きに努力出来る生徒になってもらいます。指定校を考える前にそのような準備が出来ると良いですね。

一方、AO入試や公募推薦でも求められていることがあります。それはやはり「学力」です。日常の学習をこつこつと行うことでつけられる力は大切です。急にやろうと思ってもなかなか本当の力にはならないのです。そして、それは自分自身が将来仕事を持ったときに底力となることを自覚して努力をしましょう。今の皆さんの頑張りが、長い将来につながっていると自覚し、生活を送って欲しいです。

(2)進路(専門学校)

専門学校進学決定者の入試形態(2019.2.28現在)

単位：人

	指定校推薦	公募推薦	AO	一般	計
男子	13	11	41	7	72
女子	30	8	70	1	109
計	43	19	111	8	181

本年度の専門学校進学者は181名で、ちょうど全体の50%でした。専門学校も様々な学習や資格取得ができ、本校では毎年多くの生徒が進学します。なかでも、看護やリハビリテーションなどの医療系は、年々倍率が上がってきており、強く希望する学校に合格するためには、早くから対策をしていく必要があります。

また、近年医療系以外の専門学校で、早期にAO入試を実施するところが増えてきており、本当に自分に合っているかをよく吟味しなければならなくなりました。沢山の学校を見学に行き、客観的に見る力を養うことが大切です。

『専門学校を受験するにあたって』

*焦らない

とかく、専門学校を見学に行くと、早く申し込まないと締め切ってしまうかも知れないなど、言われることが多いと聞きます。しかし、夏休みにじっくりと見学に行き、自分の長い将来も視野に入れた上で、納得出来る学校を選ぶことが大切です。夏休みからで十分間に合います。焦って、自分に合わないところを選ぶと、かえって1年を無駄にしたり、お金が無駄になったりと残念なことが起こりがちです。保護者と見学に行ったり、担任の先生に相談するなど、経験のある人の意見をしっかりと聞きながら選ぶことが、幸せにつながると感じます。

*奨学金はよく考えて

マネーガイダンス等で経済面の人生設計をしていく機会があると思います。できれば、奨学金を使わない方が理想だと思います。しかし、どうしても必要な場合は、自分の仕事面の夢と共に、どのように経済面を管理していくかを並行して考えて行く必要があります。稀に多重に奨学金を借りて、破綻してしまう人もいと聞きます。また、奨学金を返済しなければならない者同士が結婚した場合、夫婦ともに返済金がありとても苦勞をすると専門家の方から聞いたことがあります。本当に奨学金が必要なのか、じっくりと考えて欲しいものです。

*専門学校は仕事と直結

入試方法は大学・短大と同じです。指定校推薦については、学校の代表として入学しますので、高い意識が求められます。また、大学・短大と異なるのは、仕事に直結していると言うことです。自分がどのように働きたいかをしっかりと考え、その上で選ぶことが大切です。自分が働きたい地域に就職できているか、資格取得の面などあらかじめ調べておくことは沢山あると思います。看護系などは、系列の病院で勤務することが条件の場合もあるので、進路の先生によく相談してください。

*最後に

進学希望者に求められているのは、学校生活での努力です。部活動で活躍したか、英検、漢検等への挑戦、皆勤か皆勤に近いのか、成績面等、学校生活だけでなく、将来につながることに意識して進路活動を行うことがこれからの成功への道だと思います。

文責 宮原 志司子

(3)就職

①今年度の就職状況について

平成最後となった就職活動でしたが、昨年同様に多くの企業から求人がありました。日本を取り囲む状況としては米中関係の冷却化や英のEU離脱問題などが有りながらも、今しばらくの間は好況が続くと予測されているようです。今年度、求人が多かったのは建設・保安（空港警備）・福祉（介護）・飲食などで、背景には来年のオリンピックへの対応や都市部で見られる建設ラッシュなどが反映されていると考えられます。猛暑の夏休みには1社から2社の企業見学を行い、文化祭の開催とほぼ重なる9月16日から入社試験が解禁となりました。斡旋就職希望の生徒達はさまざまな困難を乗り越えて無事全員が内定をいただく事が出来ました。ひとえに保護者の皆様の御理解と、校長をはじめとする本校職員の協力の結果だと思います。入社試験では筆記試験と面接試験が行われますが、重要なのは面接です。普段からきちんとした身だしなみで、誰に対してもハキハキ話している人。人の話を良く聞ける人。物事を自分で判断出来る人。失敗したら誠意を持って謝り、行動を正せる人。自分の将来について具体的な展望を持っている人。こうした人材を企業は求めています。

公務員試験受験者は4名が合格しました。

②2018年度 学校斡旋就職の主な内定先

2019.2.28現在

事業所名	職種	事業所名	職種
日立ドキュメントソリューションズ	事務	日本郵便 東京支社	サービス
東武百貨店 船橋店	事務	特養老人ホーム 鎌ヶ谷翔裕園	サービス
ヤマト運輸 船橋主管支社	事務	あおば歯科クリニック	サービス
エービーシー・マート	販売	シミズオクト	技術
千葉日産自動車	販売	天野製作所	技術
ジーユー	販売	モロゾフ	製造
くすりの福太郎	販売	島山金属 白井工場	製造

*この他14社

③1・2年生就職希望の生徒へ

就職希望者に求められることは、次の3点だと思われます。

- (1) 挨拶 (2) 健康 (3) 基礎学力

企業への見学や入社試験できちんと挨拶の出来る事が最低条件です。人と人とのコミュニケーションの入り口になります。普段からしっかりと挨拶を行い、言葉遣いや服装を整えて学校生活を送って下さい。健康は何よりも大事なものです。病気や怪我をせずに学校生活を送れるように自己管理を行って下さい。基礎学力は外見からは分かりませんが、日常の何気ないやりとりなどに現れてしまいます。仕事・人間関係・社会生活全般における土台です。どんな勉強も無駄なものはありません。高校生でいる間に基礎的な国語力、単純な計算などを復習しておきましょう。

文責 松本 直人

2. 1年生の進路指導

[今年度の進路指導]

- (1) 進路ガイダンス (1学期に2回実施)
- (2) 進路希望調査 (1学期と2学期に実施)
- (3) スタディサプリ到達度テスト (1学期と2学期に実施)
- (4) 作文ガイダンス・作文模試 (2学期)
- (5) 分野別ガイダンス (2学期)

1学年の進路指導については、学年の重点目標である「自己理解を深め、各自の進路意識の早期確立を図る」ことを目的として取り組みました。

進路希望調査では、進路について具体的に考えている生徒も多かったようですが、自分が何に向いているかまだ分からない生徒も見られました。今年度も進学希望者の割合が多い傾向にありました。

5月の始めには、スタディサプリ到達度テストを行いました。スタディサプリは、パソコンやスマートフォンで映像授業を視聴し、その内容の理解度を問題を解いて確認することのできるサービスです。到達度テストは、自分が今どの教科のどの分野が苦手なのかを正確に把握することができ、学び直しのきっかけとなりました。今年度は到達度テストと連動した課題や、到達度テストの範囲を勉強できる課題を宿題として配信し、期日までに終わらせていない生徒に対しては放課後の指導を行い、実施を徹底させました。

5月に行ったガイダンスでは、大学・短大・専門学校・就職について、それぞれの分野の講師の方のディスカッションを聞き、より具体的に将来について考えました。

1 1月上旬に行った作文ガイダンスは、専門の講師を招き、入門編として基礎を学びました。5限に講義、6限に模試を行い、「これからなりたい自分」という課題で作文に取り組みました。大学入試や就職試験では作文が課されることが多いため、良い練習になったのではないかと思います。作文だけではなく、日常の言葉遣いについての勉強にもなっていました。

1 1月の分野別ガイダンスでは、いくつかの分野の中から2つを選択し、それぞれの講師の方のお話を聞きました。その後、クラスで同じ分野の人たちとグループを組み、メリット、デメリットを列記し、それぞれの感想を述べたワークシートを作り、発表しました。これらを学年全体で集約し、コメントをつけて廊下に展示しました。

今年度は、進路についての議論を聞いたり、学んだことを友達と話し合ったりする機会を多く設けました。また、自主的に勉強することができる環境を整えることによって、自らの力で社会を生き抜く生徒の育成を目指しました。来年、再来年はこれらの経験を活かし、より具体的に将来について考えられればと思います。その上で、今自分のやるべきことを自主的に見つけ、実践してほしいと思います。

文責 小木曾 拓

3. 2年生の進路指導

[今年度の進路指導]

- (1) 進路希望調査（1学期と2学期に実施）
- (2) スタディサプリ到達度テスト+進路適性検査+事後指導（1学期）
- (3) 進路ガイダンス（1学期と2学期に実施）
- (4) 学校説明会参加（大学・短大・専門学校、希望者夏期休業中）
- (5) 推薦、AO入試説明会（2学期・希望者）
- (6) 一般入試対策講座（2学期・希望者）
- (7) 台湾大学見学（2学期、台湾修学旅行）
- (8) 公務員模試（2学期と3学期・希望者）
- (9) 公務員試験勉強会（公務員志望生徒対象、2学期から継続して実施）
- (10) 就職指導（民間企業就職希望者対象、2学期から継続して実施）
- (11) 作文ガイダンス・作文模試（3学期）
- (12) スタディサプリ到達度テスト+進路学習（3学期）
- (13) 河合塾高2全統マーク模試（3学期・希望者）
- (14) 一般常識テスト（1年間を通して実施）
- (15) スタディサプリの課題配信（1年間を通して実施）

2学年の進路指導は、進路希望の実現に向けて、それぞれの希望に応じた進路指導・行事を行いました。

た。加えて、一人ひとりの進路に対する意識や学力の向上を図りました。

1学期の進路ガイダンスでは、進学希望者は様々な学校の説明を聞き、自分の進路の方向性を決めました。就職希望者にはガイダンスの中でハローワークによる企業説明会を実施しました（民間企業就職希望者は春休みにハローワークでの研修が始まります）。2学期は、進学希望者は実際の大学・専門学校で行っている授業を体験し、就職希望者はハローワークによるワークショップ形式のガイダンスを受講しました。1学期よりも発展的な内容に取り組み、将来へのイメージをより強く具体的に定めることができました。

スタディサプリ到達度テストとは、高校の学習内容がどのくらい定着しているかを測るテストで、年2回実施しました。その結果をもとに、インターネットを通じて課題に取り組み、苦手な科目や範囲の克服を目指しました。また、長期休みの期間を利用して、教科ごとの課題に取り組みました。スタディサプリの特徴として、動画でいつでもどこでも学び直しができるというものがあるため、多くの生徒が自主的に学習する習慣がついてきています。

進学希望者は高2河合マーク模試を受験し、現時点の実力と、全国での自らの位置を確認しました。推薦・AO入試等の対策として作文指導・作文模試を実施しています。公務員希望者には定期的に外部講師による勉強会や、公務員試験の模擬試験を実施しています。

修学旅行での台湾大学見学も、異文化に触れながら、広い視野を持ち、進路について考える良い機会となりました。

この1年間を通じ、それぞれが自分の希望する進路へ向けて着々と力を付けてきているのではないのでしょうか。3年生になると、進路へ向けて本格的に動き出します。スタディサプリや作文模試などを継続して行い、進路実現へと向けてさらに力をつけて欲しいと思っています。

文責 岸 直弥